
協和うとう会 会員名簿

1. 協和うとう会への参加経験のある人をすべて「会員」として、名簿の原稿依頼は連絡可能な限りご協力をお願いした。
 2. 原稿依頼は平成3年7月から始めたため、原稿は平成3年から平成4年にかけて作成されたものとなっている。
 3. 名簿の記載順は、50音順とした。
 4. 名簿の記載事項は、氏名・流派・所属・生年月日・住所・近況などとし、原稿作成時から変更した事項については、わかる限り新しいものにした。
 5. 現協和社員以外の会員の所属は、最も近い時期に所属していた事業場または謡曲の現所属グループとした。
 6. 原稿の依頼を連絡網を通じて行ったが集まらなかった方、また、連絡網が十分でないために依頼できなかった方々は、別にご氏名だけを掲載した。
- ※ 依頼の届かなかった方、所属など記載事項が直っていない方
多々あると思います。ごめんなさい。追補版を考えます。

<p>ふり なが 氏 名 (流派) 事業場・グループなど との関係 生年月日 現住所</p>	<p>うとう会の思い出・近況など</p>
<p>あさい のぼる 浅井 昇 (観世) 四日市工場グループ T 1 4 . 6 . 2 6 生</p>	<p>協和うとう会30周年おめでとうございます。20周年記念大会が清風クラブで開催されたのが、昨日のように思えます。今回は防府での開催とは嬉しく思います。謡は私にとって心の支え趣味として続けたいと思っています。月1回の先生の指導・稽古のために、毎週月曜日に会員が集まり稽古に励んでいます。今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>あきはら ほうへい 浅原 方平 (観世) 元九州支社 T 1 4 . 5 . 1 6 生</p>	<p>昨年協和うとう会に10年振りに参加させていただいた感激と、薬師寺における未明の寒行初体験は、今なお深く印象に残っており、関係の皆様方のご配慮に対し、心から感謝しております。</p> <p>斯道には比較的若い時から嗜みましたが、余りにも奥が深く、今では死ぬまで退屈することはないと悟り、余生を楽しんでいます。</p>
<p>あらい じゅん 新井 純 (観世) 元本社 T 3 . 1 2 . 2 生</p>	<p>加藤会長に「江口」を献能したのは第22回磐田市醍醐荘だった。第30回に加藤社長に献能とは！“思へば飯の宿”よね！</p> <p>小生、この10年に5回の欠席は、まさに落第坊主。防府は小生が謡を始めたところ。また、仕舞も薙刀も、太鼓も中の舞まで。残念！。最近月1回の同好会に加わっている。35人中、真ん中辺の年齢。</p>
<p>ありま としお 有馬 敏雄 (観世) 宇部工場グループ S 7 . 1 2 . 8 生</p>	<p>第30回協和うとう会おめでとうございます。今回は初日だけの参加でしたが、思わぬ方々にお会いでき懐かしい思いをさせていただきました。これも謡曲を始めたお陰だなと思っています。今後は防府・門司・宇部3工場の会だけの参加ではなく、協和うとう会を目標に精進したいと思います。</p>

<p>いくた とみこ 幾田 登美子（観世） 宇部工場グループ S 14. 12. 17生</p>	<p>協和うとう会第30回大変おめでとうございます。 発表会ならびに大会ごとに、今度こそは精進してがんばってみようと思いながら、つつい…。 今後ともよろしくご指導ください。</p>
<p>いそべ たけお 磯部 武夫（観世） 大阪支社グループ T 9. 8. 18生</p>	<p>うとう会30年、よく続いたものです。私の謡歴も先代大西信久師、そして智久師について45年。大西家でも先代の門下は10名程度です。小鼓は15年、故大倉長十郎師（先代家元）、故中川隆夫師、久田舜一郎師です。謡の稽古は本を見れますが、鼓は本を見れません。学生時代からの癖で一夜漬けが多くなり、反省していません。</p>
<p>いなとめ ゆういち 稲留 雄一（観世） 本社 S 22. 6. 17生</p>	<p>堺工場勤務時代（昭和47～51年）に勧められて若干かじりました。昭和50年に大阪の吹田で開かれたうとう会に一度だけ参加した記憶があります。転勤と同時に縁が切れてしまい、数冊の謡本と先生から饞別でいただいた扇が、往時をしのぶよすがとなっています。</p>
<p>いわせ あつし 岩瀬 厚（観世） 本社 S 12. 4. 17</p>	<p>大広間に所狭しと雑魚寝の三井寺、悠揚迫らぬ揖保の流れと夕日に染まった竜野の家並み、この情景は今も目に浮かびます。 謡の方は相変わらずハンディ36の男にも、協和うとう会にはこういう楽しみもあります。 このところ遠のいていますが、決して忘れたわけではありません。またいずれそのうちに。</p>
<p>おおいだ しょうぞう 大枝 正三（観世） 土浦工場 S 9. 1. 3生</p>	<p>私が諸先輩に勧められて入会したのが昭和56年ごろでした。演歌が好きでつい演歌ブシになり、「勝手にフシをつけるな」とよく叱られました。初舞台は東京・国立能楽堂の研修舞台でした。鶴亀の役を鈴木広さんとやった時の写真がありましたので送ります。足のシビレもいい思い出になっています。協和うとう会ますますの発展をお祈りいたします。</p>

<p>おおくさ　　すすむ 大草　　進（宝生） 本社 S 1 9 . 1 . 2 生</p>	<p>失敗に思いでばかり二つほど…。三島の庭園の立派な某所で開催された折、終わって立ち上がろうとしたところ、脚のしびれでステンと転び、四つん這いで退場したこと。三島の某寺の時、先輩二人と連吟。出だしはよかったものの（三人とも初心者ゆえ）途中で一人止め、二人止めして、とうとうストップ。赤面しつつ退場。はるか昔の思い出です。</p>
<p>おおつば　　えいこ 大坪　栄子（観世） 家族 S 5 . 1 1 . 2 9 生</p>	<p>うとう会には、3回ほど遊山気分で参加させていただきましたが、懐かしく思い出しています。現在は、健康に不安がないとはいえませんが、野菜畑の手入れや庭の草取り、孫の相手とけっこう動き回っています。謡の稽古はやっていませんが、たまにはテープを聞いたり、近くで大きな会があれば聴きに行く程度です。</p>
<p>おおつば　　かずや 大坪　一彌（観世） 元富士工場 S 2 . 2 . 1 7 生</p>	<p>第20回大会まで参加。以後佐賀の田舎に廬を結んで東籬の菊を採り、山を眺め、夕空の飛鳥に言を忘れていたところ西村さんに声をかけられ、急ぎ百番集を繙き、安島さん、磯部さんにご面倒をかけ、ちょうど10年振りに第30回大会に参加。旧知未知を隔てぬ仲の語らいに謡の功德を実感した次第。これを機会に、少しは心を入替えて…。</p>
<p>おおはし　　りょうさく 大橋　良作（宝生） 富士工場グループ S 4 . 9 . 2 5 生</p>	<p>うとう会の帰りに会場近くの名所旧跡を訪れることを楽しみにしている私です。薬師寺、湯の山、瀬戸内海相生、長浜豊公荘、須磨の浦等々…。 今回は秋芳洞へと思っています。 うとう会の会場設営にご努力されている諸兄に、心からお礼申し上げます。</p>
<p>おおもり　　たいりく 大森　大陸（観世） 本社 S 1 3 . 3 . 2 2 生</p>	<p>謡曲十五徳：不行知名所。不習識歌道。無友慰閑居。不思昇堂上。不老知故事。不馴近武芸。不祈得神徳。不嚴嗜行儀。在旅得知音。不望詠華月。無業散鬱氣。不好交高位。不恋思美人。不軍識戰場。不觸知佛道。 贅沢といえば、これ以上贅沢な趣味も珍しいのではないのでしょうか。ご精進をお祈りします。</p>

<p>おかがき よしのり 岡垣 克則（観世） 本社 S 1 6 . 2 . 2 生</p>	<p>昨年初め、総務部にいた時にどういう風の吹き回しかこの伝統ある協和うとう会に、入会させていただきました。昨年8月に物流管理室に移ってからは練習も思ようにならず、ただ末席を汚しているばかりですが、できるだけ長く続けようと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>おかち りょう 岡地 諒（観世） 本社 S 1 6 . 1 2 . 2 0 生</p>	<p>幽霊会員の久しぶりの登場で、申し訳なく思っております。石の上にも3年といいますので、30年も続けられた方には、つくづく頭が下がります。 私もほんとうの幽霊になってしまう前に復活を果たしたいと念願しておりますが、どうなりますことやら心許ない思いです。 協和うとう会の永続を祈ります。</p>
<p>おぼら よしと 小原 嘉人（観世） 元土浦工場 S 2 . 3 . 5 生</p>	<p>私が協和うとう会に参加したのは第16回から第21回までの6回であります。この中で古い歴史にゆかりの名刹三井寺法泉寺、可睡斎の瑞竜閣、多賀大社などにおいて、朝の勤行に参加したことが懐かしい思い出として心に残っております。機会があればもう一度と思っております。協和うとう会ますますの発展を祈ります。</p>
<p>おもたに すみこ 面谷 澄子（観世） 家族 S 6 . 8 . 1 2 生</p>	<p>転勤で東京に来ましてからご近所の方と、稽古だか茶話会かわからない謡曲の稽古を始めました。ストレス解消が目的のグループですから上達は望めず、協和うとう会の皆様のお仲間に入れていただくには程遠い実力ですが、どうぞよろしくご指導くださいませ。</p>
<p>おもたに ゆうじ 面谷 祐二（観世） 元土浦工場 S 4 . 1 0 . 2 6 生</p>	<p>各地の由緒ある、格調高い舞台での謡曲と懐かしい方々との再会は、協和うとう会の素晴らしい思い出として大切にしたいと思います。現在、第二の人生に入り、8年になります。謡曲を練習する時間が持たなくて、残念ながら中止しております。 協和うとう会のますますのご発展を心からお祈りいたします。</p>

<p>かじ よしのぶ 鍛治 義延 (宝生) 本社 S 24. 8. 22生</p>	<p>その昔、「日常性への埋没」という言葉がはやりましたが、まさにこういう状況に陥ってもがいております。その証拠に、NHKテレビ番組の「太平記」での猿樂舞のシーンには「仲々よいものだ」と感じております。まだまだ…。またそのうちに…。</p>
<p>かどばやし すえお 門林 末男 (観世) 堺工場 S 17. 12. 20生</p>	<p>ヨオ！ヤー！オー！ 三々九度で雰囲気盛りあげた知人の謡曲。それが二十数年前の出会い。 妖しき能面、幽玄の世界への想像と部長の巧みな術中に陥って、おそろおそろ覗き見た耽美の部屋。“吉野天人”を“吉野夫人”と読み間違えた私の誤算。やがて二年、エロチシズムが、唸った後の空腹と爽快感に形をかえた。</p>
<p>かとう かつこ 加藤 包子 (観世) 家族 S 8. 8. 5生</p>	<p>防府工場に参りましたとき謡に接し、服部夫人を中心に練習に励みました。以来、協和うとう会にも出させていただき、今はよい思い出となっております。現在はなかなか皆さんともお会いできず、謡からも遠ざかっており、少々残念に思っております。 協和うとう会がますますご発展しますようお祈りしております。</p>
<p>かとう しちや 加藤 七弥 (観世) 字部工場グループ T 11. 12. 22生</p>	<p>近況 (長生きは幸せか?) 今年102歳の母が三年前、当時77歳の長男に先立たれ、世話をしていた義姉が入院、止むなく1ヵ月のショートステイを頼み、期限が終ったものの本宅には帰れず、兄弟の内では一番若いとはいえ70に近い小生宅が宿となり、口では言えない苦労がある。だが月3回の謡の稽古や習い事で幸いに送日中。</p>
<p>かとう ようこ 加藤 弥生子 (観世) 家族 S 17. 3. 7生</p>	<p>昭和50年に始めましたお謡も14年続けまして、ただ今休止中です。その間、清風荘でのと、大和六瓢能舞台のと湯の山希望荘でのと、3回のうとう会に参加させていただきまして、よい思い出となっています。防府、土浦門司と、住所は変わっても同じ謡仲間とてすぐその土地になじむ事も出来まして喜んでます。</p>

<p>かみもり しげる 上森 茂（親世） 四日市工場 S 26. 7. 20生</p>	<p>私がうとう会に参加させていただきましたのは第21回多賀大社からであります。堺のみなさんと鶴亀をうたわせていただきました。そして今年ちょうど10年。 また61年から藤波重和先生にご指導いただくご縁に恵まれ、すでに5年がたちました。これからも稽古を重ね、少しでも諸先輩に近づくことができるよう頑張りたいと思います。</p>
<p>かわい まきのみ 川合 正允（宝生） 元東京研究所 S 10. 3. 15生</p>	<p>協和を退職して早や2年半。協和時代には敬遠していた食品業界に足を踏み入れ、その間口の広さと変化の早さに驚いています。技術屋が今では経済学に振り回され目を白黒させている毎日です。 先日、厚木森の里で薪能を観る機会があり、うとう会を思い出しました。皆様の御健勝と、うとう会の盛會に遠くより乾杯します。</p>
<p>かわさき すけさだ 川崎 資定（親世） 本社グループ T 4. 3. 16生</p>	<p>うとう会には近頃高齢の為、ご無沙汰で皆様方と一緒にうたう機会のないのは残念である。現在、毎日一度はテープを聞きながらうたっている。今更上手にはなれないが近くの謡の先生に習っているものの、持ち前の蛮声をはりあげての乱暴なうたい方は、直る筈もない。しかし、それでもうたう楽しさだけは満喫している。</p>
<p>かわむら みのる 川村 實（親世） 本社グループ T 11. 6. 1生</p>	<p>早いもので本社謡曲部に入って14年になる。その間にうとう会に参加して本社以外の同好の士と交流を深めることが出来た。それもこれも謡曲を習ったお蔭と感謝しております。現在小生は月、水、金と東京に出かけ本社の月2回の稽古日に出席。休日ほうならせてもらい健康維持とボケ防止にと稽古に励んでおります。</p>
<p>かわもり みちこ 河盛 迪子 家族 S 10. 1. 11生</p>	<p>協和うとう会といえば、新井様、西村様、そして何かとお世話くださる安島さんのお顔が頭に浮かびます。皆様のご努力のおかげで、30周年をお迎えの由、おめでとうございます。これからも、謡曲が大好きな有能かつ犠牲的精神旺盛な後輩が、この会を盛り上げ、和みの輪が広がって行きますことを祈念いたしております。</p>

<p>かんだ のぶお 神田 信夫（観世） 本社 S 2 2 . 1 1 . 2 0 生</p>	<p>うとう会の思い出は、しびれの思い出。途中で立つ訳にもいかず、気もそぞろという体たらくでした。何とか最後までもつようと訓練もしたのですが、いまだに謡と同じく未熟ものです。</p>
<p>きくもり えつぞう 菊守 悦三（観世） 大阪支社 S 1 5 . 2 . 2 2 生</p>	<p>前回の20周年記念誌の時に、謡を習い始めましたので、早くも10年が経過しましたが、稽古不足では上達するわけがなく、いたずらに年数ばかり経過しております。 今後とも、うとう会にはなるべく参加したいと思っていますのでよろしくお願いします。</p>
<p>きしだ ぐんじ 岸田 軍二（観世） 宇部工場 S 1 5 . 6 . 2 1 生</p>	<p>「継続は力なり」をモットーに協和うとう会の歴史に負けないよう精進したい。</p>
<p>きたに むみえ 木谷 芙美枝（観世） 家族 S 5 . 8 . 1 5 生</p>	<p>昭和35年防府で初めて謡曲を習い、宇部・堺・名古屋と住む処は変わりましたが、私の唯一の趣味として、ただ今は坂井音重先生に師事して謡い続けております。 昭和57年から、うとう会に出席させていただき、懐かしい方々にもお会いでき、楽しい想いをさせていただいております。</p>
<p>きたに まきあつ 木谷 正敦（観世） 四日市グループ T 7 . 3 . 1 6 生</p>	<p>堺時代に謡曲部に入り、うとう会に参加した。黒金化成に出向して謡からも遠ざかっていたが、第20回の大会にお誘いを受け復活した。翌57年から中謡会うとう会は都合のつく限り夫婦でお世話になっている。 第40回の大会は無理だろうが、できる限り出席して楽しませて貰うつもりである。</p>

<p>きむら かずお 木村 一雄（観世） 元東研・防府・宇部 S 6. 1. 16生</p>	<p>台風前夜の大雨の中での第11回大会、三井寺で行われた第16回大会での法話「慈悲」、また毎年の大会で夜遅くまで聞かれた番囃子のお稽古など、懐かしく思い出されます。現在おります福井市では町の篤志の一医師が毎年一回、片山宗家の能を二番公開して下さっておりますので、ほとんど毎年鑑賞させていただいております。</p>
<p>くしろ ひろのり 久代 浩徳（観世） 本社 S 12. 5. 7生</p>	<p>本人の努力不足や病気のため、謡の方はほとんど進んでいません。最近、NHK-FMの日曜8～9時に放送される「謡曲の時間」のうち、観世の部分を録音し、時折聴くようにしている。 外国に遊びに行った折、相手から何かやれと求められた時など「これが日本のオペラだ」と謡えるようにでもなれば、しめたもの。</p>
<p>こいけ まさこ 小池 方子 家族 S 13. 8. 30生</p>	
<p>こぐれ まさすけ 木暮 正祐（観世） 土浦工場 S 17. 8. 16生</p>	<p>私が土浦工場謡曲部に身を寄せていた頃は、富岡先生のお導きにより、三井寺での大会を皮切りに毎年のように「うとう会」への参加を果たすことができ、幽玄の雰囲気存分に浸らせていただきました。 赤とんぼ荘での大会では、一同が起立して「夕焼けこ焼けの赤とんぼ...」を斉唱し、オール協和の連帯感を強く感じました。</p>
<p>さいとう ひろゆき 斎藤 弘之（観世） 大阪支社グループ T 8. 9. 29生</p>	<p>防府工場で謡を習い始めて結構年月を経ましたが、その間出向その他ブランク期間もあって、まだまだ未熟、稽古を続けるしかないと思っています。しかし謡っていると、その曲趣とそれぞれの字句の美しさ、贅沢とも思える多彩な表現と豊かさにはいつも心を惹きつけられ、言葉を大切に育ててきた日本人の心なんだなと思っています。</p>

<p>きさい よしはる 笹井 義晴（観世） 土浦工場 S 17. 10. 25 生</p>	<p>昭和57年まで防府の森脇先生のもとで修業しましたが、以後、本社、土浦と渡り歩き、現在は謡曲とは全く縁のない人間となり、申し訳なく思っています。</p>
<p>きだなが おきむ 貞永 納（観世） 安全性研究所 S 21. 10. 5 生</p>	<p>協和うとう会の30周年記念大会おめでとうございます。私は2年前に先輩の誘いにより謡曲を始め今日に至っています。三日坊主の私がこれまで続けられたのを私自身不思議に思っているところでございます。 協和うとう会には今回が初めての出席です。多くの方々とお会いできることを楽しみにしています。</p>
<p>きとう こうじ 佐藤 恒治（観世） 元四日市工場 S 8. 10. 27 生</p>	<p>四日市から大阪に移って早いもので4年たちました。当初は何かと気忙しく謡を忘れていましたが、前回の薬師寺の「協和うとう会」を期に地元、国分の謡曲の会に入会し稽古を再開いたしました。 謡曲とめぐり逢ったおかげで、年に一度協和の謡仲間と旧交を暖め会うのが大きな楽しみです。</p>
<p>きとう みへい 佐藤 武平（観世） 本社 S 10. 8. 29 生</p>	<p>昭和57年春から半分ひやかして習い始め、なかなか筋がいいぞとおだてられ、その気になってみたがなんと奥の深いこと。初めて参加したのが第21回からで愛知県蒲郡の本格舞台を使っただけの会であった。私は恥をしのんで「東北」の一部を素謡で出演した。しかし皆さんのうまいこと、中にプロなみの人もおり、その迫力に圧倒されたのを覚えている。</p>
<p>きとう まもる 佐藤 護（観世） 堺工場 S 20. 7. 28 生</p>	<p>この10年間、皆勤とはいかなかったが、ほとんど出席できてうれしく思っている。 今後、四十周年に向けて、楽しみながら続けていきたい。</p>

<p>さわの ただお 沢野 忠男 (観世) 防府工場 S 1 6 . 4 . 2 2 生</p>	<p>毎年とう会参加名簿から、名前が消えてから久しい。何回かの参加で、強烈な印象が2件ある。一つは謡の数多い鑑賞のなかで、ただ一度、物語の世界に引き込まれてしまい自分を忘れた。とう会での「隅田川」。もう一つは曲目の記憶はないが、出演後、先輩より「声がよく出ていたよ」と言われて非常に嬉しかった。とう会は感動を創る。</p>
<p>しばむら せつこ 重村 節子 (観世) 防府工場 S 1 9 . 4 . 2 9 生</p>	<p>S 5 7 年に入部して早、10年目を迎えようとしています。入部した年に浜松でのとう会が初参加であり、初舞台でもありました。何もわからないで参加し、正座で緊張し続けとあって後々まで疲労感が残った事を覚えております。あれから継続的な練習不足で一向に上達せず9年間過ぎてしまいました。何年やっても正式な発声法がわからず、いまだに悩んでおります。</p>
<p>しまだ じゅんいち 島田 順一 (宝生) 富士工場 S 3 4 . 3 . 1 生</p>	<p>まだ始めたばかりですが、よろしくお祈りします。</p>
<p>しまもり とみよ 島森 登美代 (宝生) 富士工場グループ T 5 . 6 . 2 9 生</p>	<p>とう会も30周年を迎え、おめでとうございます。高橋先生の寛容なご指導により今日まで続けられました事を感謝いたしております。 楽しむ事の一つでも多い余生を過ごすために、これからも続けていきたいと思っております。今後のとう会の発展をお祈りいたします。</p>
<p>すがき ひろし 鈴木 廣 (観世) 元土浦工場 S 4 . 1 2 . 1 5 生</p>	<p>四十の手習いで入会し、諸先輩のご指導を仰ぎ、お蔭様で祝いの席で謡うときは何とも言えぬ気持ち。腹の底より絞り出す己の声に思わず優越を感じることもあります。思い出としては、とう会で各地に遠征し、それぞれ流派の持ち味を逸する事なく謡う皆さんの姿が目当たり浮かんできます。ますます協和とう会のご発展を祈ります。</p>

すずき まさな村
鈴木 正直 (観世)
本社グループ
M 4 5 . 6 . 1 7 生

遠い記憶を辿ると浮んでくるのは、伊豆の網代でのうとう会の前夜祭である。明日の打合せをする人、飲んで勝手な歌を歌う人、いかにものびのびした、いい空気であった。さて20年飛んで奈良の薬師寺。寒さのせいもあったかキュンと身の引き締まるような会合だった。長年お世話様になって有り難く思っております。

すずき まさみ
鈴木 正美 (宝生)
ヤンセン協和
S 7 . 1 . 1 生

謡を始めて15年は過ぎようとしている。協和醸酵富士工場で、高橋先生に教えていただいたのが始まりである。途中東京勤務となり一時練習を中断したが、本年6月からヤンセン協和富士工場勤務となり練習を再開する事とした。月日が過ぎるが練習時間が短く遅々として上達しないが、マイペースで今後もやって行きたいと思っている。

すどう けいき
須藤 恵紀 (観世)
本社
S 1 7 . 2 . 1 7 生

土浦工場で富岡先生から教えを受けてからおよそ10数年。初めてのうとう会の参加は、第20回であったと記憶しております。ここ数年は、奈良・薬師寺のうとう会を最後に、本も開いていない状況です。

昨年1月本社へ転勤。仲間入りの誘いは受けていたのですが…。何かの機会を得て復活したいとは思っています。

せじま つねお
瀬島 常雄 (観世)
大阪支社
S 1 2 . 5 . 3 0 生

本社3年半勤務中は会員から除籍されても仕方がないくらい出席できませんでした。8月、大阪支社転勤にともない再度挑戦してみたいのですが、磯部先生よろしく願いいたします。

たかだ こうぞう
高田 功三 (観世)
大阪支社
S 1 3 . 7 . 1 4 生

なんとなく入会。早2年になるが謡曲を理解していない。500余年の歴史ある芸能を学ぶにお粗末な取組姿勢と反省。しかし、NHKの能楽番組を見ることもあり多少変化しているのかなと思う近況です。

<p>たかはし よしお 高橋 孝夫（宝生） 富士工場グループ T10. 8. 30生</p>	<p>最近新人の参加がふえているのは心強い限りだが、一方休んでいる人が多いのは残念なことだ。 この10年間で特筆すべきは水原さんがプロになったこと、立派な舞台も出来て一昨年はうとう会にも使わせていただいた。 囃子をやることにより他流の方々とお付き合い出来ることを幸せだと思う昨今です。</p>
<p>たかやま けんいちろう 高山 健一郎（宝生） 元東京研究所 S8. 8. 5生</p>	<p>東研で水原先生門下生として20年以上続けてきましたが、昭和63年秋、協和を退職し、名古屋の敷島製パン株の研究所に勤めています。うとう会には10数回参加し様々な思い出もあり、また謡曲をやってきて良かったという感懐です。こちらでは、黒金化成の平尾さんの誘いを受け、中謡会に参加させていただいております。</p>
<p>たじみ やすひろ 但見 靖啓（親世） 本社 S17. 5. 21生</p>	<p>およそ10年振り、本社に帰って来ました。その間宇部、門司、九州でも、時々謡の本を開いて唸っていました。 謡は、一度始めると、その魅力に取りつかれ、忘れ難い存在になるようです。大声を張りあげて、家族や隣近所の人々を驚かす、あの快感は、岩の上で咆哮するライオンの気持ちに似ていませんか。</p>
<p>たつみ しゅんいち 巽 俊一（親世） オーランドフーズ S5. 2. 19生</p>	<p>三井寺のうとう会に初参加して強い感銘をうけたのはもう一昔前になりました。現在オーランドフーズで千葉本社と土浦新工場を往復し多忙のうちに過ごしております。最近は謡う機会もなく、せめて日曜日朝のNHKの能楽鑑賞を聞いて、うさを晴らしております。機会をみて、また仲間に入れていただきたいと思っております。</p>
<p>たなか ひとし 田中 均（親世） 大阪 S17. 4. 10生</p>	<p>9月から、2度目の大阪勤務です。最初の勤務の時、昭和56年に、誘われて入会しました。1年で東京支社へ転動になり、それっきりで10年が過ぎました。先般転動の荷物整理中、謡の本が3冊出てきました。懐かしく思っていたところ、うとう会30周年の話を知りました。おめでとうございます。今後、ますますのご発展をお祈りします。</p>

<p>たなべ ひろあき 田辺 博章（観世） 本社 S 2 5 . 6 . 1 生</p>	<p>四日市で熊沢先生に教えていただくようになったのが昭和50年。その当時の録音テープが少しだけ残っていて、時々聞いては亡き先生を思い出します。先生の勧めでボーナスをはたき、仙台平の袴を誂えたのが今まで謡続ける主要因です。最近は、富岡先生から囃子謡を教えていただき、改めて謡の奥の深さを思い知らされています。</p>
<p>たむら なおくに 田村 直邦（観世） 本社 S 2 2 . 4 . 2 6 生</p>	<p>大阪支社でお世話されている菊守主査に「謡曲を」と誘われて、はなはだ日本的表現でNOのつもりで「考えてみます」と答えたら即入会。以来足掛け2年です。まだ謡十徳どころか、大声で怒鳴っているだけで、これからどうなるか、と心配しています。しかし、鹿威し（添水）にも似た大鼓の音が少し気になりだした今日このごろです。</p>
<p>つなの まさみ 綱野 政美（観世） 堺工場 S 2 4 . 8 . 3 生</p>	<p>昨年から参加したが、カラオケのようにはいかない。そこがまた、やる気にさせる所以か…。</p>
<p>つるぎ しんいち 鶴来 伸一（観世） 元本社 S 7 . 7 . 2 5 生</p>	<p>第18回から22回まで参加させていただきました。三井寺で紅葉狩を謡ったのを鮮やかに思い出します。中止ではなく中断の心算でしたが、あっという間に10年近い歳月が過ぎました。機会をみて、また参加させていただきたいと考えております。</p>
<p>てしま まさこ 手島 正子（観世） 家族 S 1 4 . 1 . 2</p>	<p>お世話が大変でございますのに、いつもご親切にお誘いいただきましてありがとうございます。 家庭がございまして、なかなか出席できませんけれどもできるだけ参加させていただきまして、皆様のお上手なお謡を聴かせていただきたいと思います。 ますます協和うとう会が栄えられますよう、お祈りいたしております。</p>

<p>てらにし まきゆき 寺西 正行 (宝生) 本社 S 1 4 . 5 . 2 6 生</p>	<p>第30回を迎える事に感慨をおぼえ、関係された方々に深く感謝しています。今日、謡より遠のきつつある身ですが、入社当時より謡を始め、うとう会に向けて練習した日々、会を通して知り合った多くの人々をなつかしく思い出しています。他に類のない「うとう会」の益々の発展を心より祈念致します。</p>
<p>どい えいいち 土居 鋭一 (観世) 大阪支社 S 2 9 . 8 . 2 生</p>	<p>謡を始めて早くも2年が経過し、とうとう抜け出せなくなっていました。ロックを愛する私が謡をやっているのは自分でも不思議ですが、一日も早く謡の中身を理解し、喜びを得ることが出来るように頑張ります。うとう会の思い出は平成2年の薬師寺において、覚えた般若心経が朝のお勤めに役立ったことです。</p>
<p>とみおか けいたろう 富岡 啓太郎 (観世) 元土浦工場 T 1 5 . 6 . 2 7 生</p>	<p>目下の稽古科目は笛 (一噌仙幸師) と謡 (清水要之助師)。清水師は今年90歳だが、さすがに先代左近師の地頭を藤波師と共に勤めてきただけに、その謡は老大家の滋味あふれたものである。いかにしてうま味を身につけるか悩んでいるところだが、師に指摘されることはその課題に答える指標だと思い、励んでいる。大鼓 (おおかわ) と仕舞、これはただ演 (や) るだけ。</p>
<p>ながおか しげのぶ 永岡 重信 (観世) 宇部工場グループ T 1 0 . 5 . 2 1 生</p>	<p>長浜の25回大会に初めて参加させて頂きただ夢中にて大声を出したつもりでした。以来お世話になっております。東京の大会は水原先生のご厚意で能舞台の会を初めて味わうことが出来ました。感激は忘れぬ思い出であります。昨年の大会も大寺で思い出多い会でした。30回大会は宇部工場も初参加の方々と楽しく参加させていただきます。</p>
<p>ながくら ひさこ 長倉 久子 (宝生) 富士工場 S 2 1 . 4 . 1 5 生</p>	<p>一時中断していた小鼓の稽古を、三池さんに刺激されて再開しました。しかしなかなか暗記できずにいます。</p>

ながとみ まさと
永富 正人（観世）
宇部工場グループ
S 6 . 1 0 . 1 6 生

私が謡曲を始めたのは、52年の夏からでした。それから4～5年の空白がありましたが、初めてうとう会に出たのは59年の23回うとう会でした。思い出と言えば、先達の方々の謡はみなすばらしく、特に舞囃子の山姥を見てほんとうに感銘しました。私といえば土蜘蛛のワキを謡ったのですが、あれを想いだせばほんとうに恥ずかしくなります。

なかがわ としお
中川 年男（観世）
元本社
T 4 . 1 0 . 8 生

20周年記念誌の座談会で新井会長が、印象に残ったことの一つに「会長を中川さんから押しつけられた」とありますが、第9回の記事では中川さんから「大先輩の新井さんに会長になって頂いたら」と提案があり一同パチパチ。かくして新井会長が誕生されたとあります。これがほんとうです。提案者として今でも大変誇りに思っております。

に き たかし
仁木 卓（観世）
大阪支社
S 2 6 . 3 . 1 9 生

習い始めて3年が経過します。一向に上達しません。練習日以外にも（謡曲に）接する機会を作るように努力しています。

にし の くにあき
西野 邦明（観世）
名古屋支社
S 1 9 . 7 . 2 5 生

うとう会の初めての参加は、S63年の湯の山希望荘の時に、土蜘蛛の地謡を謡った。その時は大阪支社で磯部先生に習っていたが、練習をさぼり気味の生徒であった。そのツケを現在深く反省している。名古屋に転勤して四日市グループへ入ったが、距離の障害があり、これを少なくするため、OBの木谷先輩の奥さんに教えていただいている不肖の門下生である。

にしむら あつし
西村 淳（観世）
元本社
S 3 . 4 . 2 0 生

仕事の重圧の為15年近くうとう会から離れ、過労による大病から癒えて再び謡とうとう会に復帰してから早いもので15年経ちました。年に一回うとう会で皆さんと旧交を暖めつつ共に謡い、舞い、囃すのは最高です。62歳を過ぎてから能管を始め、能楽の中の唯一のメロディ楽器を楽しんでいます。70歳までに太鼓も、と思っています。

<p>にしむら みちこ 西村 道子（観世） 家族</p>	<p>京都女専の頃から始めた謡も年月だけは長いものとなりました。防府時代、社宅の皆様とのお稽古も懐かしい思い出です。主人が四街道にグループをつくってから再び謡と仕舞を始め、地域の多くの方々と親しくさせて頂いております。うとう会では三井寺や岡崎の可睡斎、御立派な水原様の六瓢舞台など良い思い出となっております。</p>
<p>にしもと のりゆき 西本 徳之（観世） 宇部工場 S 3 8 . 2 . 1 6 生</p>	<p>うとう会の参加は初めてです。 また、初心者ですので、いろいろ勉強中です。</p>
<p>のぐち えいぞ 野口 栄男（観世） 元堺工場 S 4 . 1 . 3 0 生</p>	<p>23歳の時、門司工場で謡曲を始め、大阪、堺と3師に師事しました。堺での約20年が一番思い出に残っております。定年退職後、現住所に移り、勤めの合間を見ては謡を楽しんでおります。</p>
<p>のぐち きだお 野口 貞夫（観世） 防府工場 S 1 3 . 1 2 . 1 5 生</p>	<p>謡曲を初めて教えてもらったのは、昭和40年代の終りころでした。先生は岡地先生、生徒は志村君と私の2人。「うとう会」への初参加の時、謡は無本でやるものとの先生の厳命で、懸命に覚えたことを懐かしく思い出します。今は謡曲から離れておりますが、それでも毎年正月には、必ず1～2曲謡って新年を祝っております。</p>
<p>のぐち のぼる 埜口 登（観世） 土浦工場 S 1 3 . 1 . 1 0 生</p>	<p>18、19回のうとう会に出席させていただき、今は遠い思い出となりました。時折、ラジオ、テレビで耳にしますが、今思うことは、もっと頑張っておくべきだと反省しております。現在は、聞き方で楽しんで行きたいと思っております。</p>

の ぎか はいこ
野坂 恵子（観世）
（旧姓 衣輪・きぬ）
元大阪支社
S 3 8 . 4 . 1 生

思えば謡の言葉の美しさにひかれて“聞くだけ”のつもりで始めた謡でしたが、うとう会では謡はもちろんのこと、全国の支社・工場の方々と知り合えたこと、懇親会でとても楽しく過ごさせていただいたことが、思い出されます。今は育児におわれ、子供を叱る時だけ、その発声？を生かす毎日ですが、またいつか再会したいと思います。

のむら ただあき
野村 忠亮（観世）
本社
S 1 9 . 3 . 1 6 生

うたいを習いはじめてから14年になる。いっこうに上手にならないが、続くことだけが力になると思っている。結婚式の披露宴で2度ほど高砂を謡って祝儀をつけることができたのが成果といえるでしょうか。ともに始めた川村さん、渡辺さん、八尾さんが皆やめずに続けられていることも嬉しい。

のむら まゆみ
野村 真由美（観世）
元協和安全性研究所
S 4 0 . 2 . 2 生

協和うとう会30周年おめでとうございます。勉強不足のまま63年に一度だけうとう会に参加しました。仕舞等もやりたくなかったのですが、今は退職して子育てに専念しています。私が子育てが終り再び謡曲を始めるのは先になりそうですが、その時まで末永く益々盛んに協和うとう会が続いておりますことを願っております。

はっとり さち
服部 幸（観世）
家族
T 1 3 . 1 1 . 2 3 生

協和うとう会がこのように長く、またOB、家族の方々と交え、和気藹々と催されることは、素晴らしいと思うと同時に感謝いたしております。めったにお目にかかれぬ方にもお会いでき、旧交を暖めることもでき、いつもほのぼのとした思いで帰ります。今後ともよろしく願いいたします。また、いつもお世話をいただく方々に厚くお礼申し上げます。

はなだ あきこ
花田 有紀子（観世）
宇部工場グループ
S 9 . 1 2 . 1 生

協和うとう会30周年おめでとうございます。私も縁あって謡曲を始め、今年で5年を迎えます。こんなすばらしい会に出席出来ること、大変幸せに思います。これから先も謡曲との縁を大切に頑張りたいと思います。また謡曲を通して多くの皆様方との出会いがあったこと、感謝します。うとう会が末永く発展することをお祈りいたします。

<p>はやし みねゆき 林 峰之（観世） 本社 S 1 9 . 4 . 5 生</p>	<p>今は「うたい」の「う」の字も関係のない生活です。謡曲にじびれることはありませんでしたが、足のじびれは強烈に覚えております。 また何かの契機がありましたら、皆様とお会いしたいと思っております。</p>
<p>はらだ ひろあき 原田 博彰（観世） 防府工場技研 S 3 8 . 2 . 2 8 生</p>	<p>謡曲を始めて、早や3年。毎度まいど謡曲会の直前に先生にしごいてもらい、何とか恰好をつけております。先生には、いつもいつもご迷惑をかけっぱなしで、申し訳なく思っています。人に気味悪がられながら、夜、道や寮で「独吟」をするのが趣味です。古典の世界を身近に感じる、謡曲が好きです。皆様、よろしく願います。</p>
<p>ひらお まなみ 平尾 學（宝生） 富士工場グループ S 4 . 1 . 2 生</p>	<p>うとう会は18回目、中謡会は11回皆出席、特にうとう会は年1回の命の洗濯（大げさ？）だと楽しみにしています。S 5 8 年黒金化成（愛知県知立市）勤務になって、謡・笛ともに専ら自習のため皆さんにご迷惑を掛けています。名古屋は能が盛んで熱田神宮能楽殿は土・日・祝日に必ず、名古屋城夏祭りには2週間薪能が続きます。</p>
<p>ひらた きとる 昼田 了（宝生） 宇部工場 S 2 2 . 1 . 5 生</p>	<p>伝統ある「協和うとう会」に、第30回にして初めて参加させて頂きました。全社規模の会で社内交流の場としても意義があり、盛大な会であったと思っています。 これからも日本古来の芸事の良さを、できるだけ多くの人と楽しめる様に努力したいと思っています。</p>
<p>ふくい きよし 福井 清史（観世） 元堺工場 S 5 . 6 . 7 生</p>	<p>第7回うとう会に初参加以来、気まぐれな性格から、今日まで数回の参加ではあったが、参加した時は非常に感動した。特に晩鐘の三井寺（第16回）で三井寺を謡った時のことは、今でもくっきりと頭に浮かんでくる。残念ながら、ここ数年は参加できなかったが、また、大阪に勤めることになったので、是非参加したいと思っている。</p>

ふじい たけお
藤井 武夫（観世）
大阪支社
S 15. 2. 13生

昭和61年九州支社へ転勤になり、暫く謡曲から遠のいていました。昨年の「うとう会」は、浅原先輩に誘われ参加予定でしたが、急用が出来て欠席し、すみませんでした。

今年、大阪支社へ転勤になり、再び磯部先生のご指導を受けることになりました。一から出直して稽古を続けますのでよろしく。

ふじい よしたか
藤井 祥孝（観世）
土浦工場
S 15. 10. 21生

昨年7月、防府工場から土浦工場へ転勤しました。周りの様子が分からないこと、土浦工場の謡曲部が休部中であることなどを言い訳に、謡曲からも随分遠ざかりました。協和うとう会の皆様方にもご無沙汰ばかりで申し訳ございません。誌上での再開、大変喜んでます。事務局の粹な計らいに合掌。

ふじさわ きとこ
藤沢 佐都子（観世）
大阪支社グループ
T 15. 5. 17生

初参加は浜名湖・館山寺で坂口様（現防府工場長）のご紹介により宇部工場女性4名でした。退職して娘宅に同居した4年前、平尾様のお口添えで磯部先生に師事しています。支社は立地条件がよく、新聞掲載の展覧会やデパートめぐりをしてからお稽古に出席しています。

ふじた りょうすけ
藤田 良輔（観世）
本社グループ
S 8. 5. 8生

私にとって、うとう回は浜名湖・館山寺での紅葉狩から始まった。以来、謡本は増え続け、60冊近くにまでなった。故郷の家にある祖父や、父の使った謡本よりも数だけははるかに多いが、技量の方は今となっては比べることも出来ない。

なんといっても剛吟が好きである。落ち込んだ時など修羅物のキリを謡えば気分爽快となる。

ふるや まさかつ
古谷 正勝（観世）
宇部工場
S 15. 2. 15生

第30回「協和うとう会」記念大会おめでとうございます。謡曲を始めて、もう5年になりますが、まだまだです。一昨年の水原先生宅の能舞台初体験は感無量でした。貴重な体験ありがとうございました。今年は地元防府で開催されます。宇部工場謡曲部も頑張ります。これからも「協和うとう会」のますますの発展をお祈りします。

<p>まつい のぶゆき 松井 信行（観世） 四国支店 S 17. 5. 5 生</p>	<p>本社時代に半強制的に観世に入部し、防府で森脇先生に、大阪で磯部先生に教えていただきながら、飲みこ要員を自称し、うとう会に参加するのを楽しみになんとか続いていた不肖の弟子である。うとう会に出なくなって久しいが、元々声を出すのは好きなので、機会があれば再び謡曲とお付き合いできるよう、謡本は大切にしまっている。</p>
<p>まつおか きよこ 松岡 佐代子（観世） 防府工場技術研究所 S 41. 12. 18 生</p>	<p>私は、去年の12月に謡曲部に入りました。それまで謡曲というものがどんなものか全く知らず、唸るものか力むものか、などと思っていましたが、やってみて「うたう」ものだということがようやく分かってきました。下手ですが、やっているうちに役の気分になってくるから不思議です。皆様、どうぞよろしくお願ひします。</p>
<p>まつお ひでき 松尾 英毅（宝生） 土浦工場 S 17. 1. 25 生</p>	<p>昭和49年に東京研究所から味日本へ出向以来、謡曲ともすっかり疎遠になってしまいました。現在は時々、テレビで能の舞台を鑑賞するのみです。うとう会の一層の発展を祈念しております。</p>
<p>まつもと ただし 松本 正（宝生） 本社 S 28. 6. 24 生</p>	<p>うとう会では、謡より宴会の方で活躍しているような気がします。また、会場も観光地が多く、会の後での散策を楽しませていただきました。ここ2年間は、夜学のために練習から遠のいていましたが、そろそろ復帰しようかと考えています。</p>
<p>みいけ きみえ 三池 公恵（観世） 家族 S 23. 9. 27 生</p>	<p>大坪先生に、ひざの上の赤ちゃんと一緒に謡を習っていた頃から、もう10年以上たち、その子も中学生！。現在は高橋先生に、月2回、鼓を習っています。早く、いい音が出ればと、その日を楽しみに練習しています。その傍ら、長泉の陶芸教室で、北村和煌先生のアシスタントとして、土と格闘しながら忙しい毎日を送っています。</p>

<p>みずたき しょういち 水滝 彰一（観世） 堺工場 S 2 6 . 9 . 2 2 生</p>	<p>初めてのうとう会参加が、静岡県・可睡斎での第19回であった。小袖曾我を連吟で謡ったが、ヨワ吟の節がなかなか覚えられず大変苦勞したことが思い出される。 会の直前でのにわか仕込に終始しているが、初参加以来今日まで、うとう会は何とか皆勤を続けている。</p>
<p>みずの まなぶ 水野 學（観世） 四日市グループ T 1 2 . 1 . 1 生</p>	<p>四日市市および近郊の、観世流の現役OBの仲間に入っています。曲趣を得ることに心掛け、意味を深めたく仏教辞典を繙く今日であります。</p>
<p>みずはら いっぴょう 水原 一瓢（宝生） 元本社 T 1 4 . 4 . 2 3 生</p>	<p>7人ぐらいでうとう会を始めてから30回とは夢のようです。宝生のグループは本社・東研・富士工場にあったのですが、転勤によって人が移動しても転勤先に宝生がない場合が多く、今では富士以外は稽古の継続ができなくなっています。しかし何とか復活したいと思っています。この会は観世・宝生2流が力を併せて始めたのですから、今後も相協調して育てて行きたいと思います。</p>
<p>みずはら けいこ 水原 圭子（宝生） 家族 S 5 . 3 . 1 0 生</p>	<p>ただただうるさいものだと思っていた謡も、自分がやれば騒音とは感じなくなるだろうと思って始めたのですが、その難しさに驚いています。ただ主人との会話が増えたこと、うとう会で知らない所へ旅行できることなどが楽しみです。</p>
<p>みたに てつお 三谷 哲雄（観世） 宇部工場 S 1 1 . 1 0 . 3 生</p>	<p>私も謡曲を始めて何年になるかな？と思っているうちに観世流宗家より九番習までの免状をいただき、また精進し頑張らなければならなくなりました。会の発表会やうとう会での出逢があることが楽しく、謡うことが目的ですがこれも楽しく思っております。協和うとう会30周年記念大会、大変おめでとうございます。</p>

<p>みどり しずお 緑 静男（観世） 四日市工場 S 19. 7. 15 生</p>	<p>うとう会からご無沙汰してから久しく、第何回から参加していないか忘れてしまいました。過去うとう会の多くの先輩諸氏にお世話になりながら、不義理を続けていまして申し訳なく思っています。私事ですが不徳の致すところで、この数年いろいろなことを経験しました。今は心も落ちついてきました。いずれ再び参加するよう挑戦します。</p>
<p>むらかみ しずお 村上 静男（宝生） 宇部工場 S 21. 8. 6 生</p>	<p>上司の勧めもあり、週に一度の休肝日が目的で、軽い気持で謡曲を習い始めて早5年。教本も気がつけば40冊ほどになり、春秋の発表会が待ち遠しくなり、最近になり興味が沸きました。今回初めて「協和うとう会」に参加しましたが現役、OB、さらに関係会社の方々の参加で大変楽しい一時を過ごさせていただきました。また再会できる日を楽しみにしております。</p>
<p>もちづき みえ 望月 美江（宝生） 富士工場グループ T 5. 5. 20 生</p>	<p>年々のうとう重ねて老いし菊……70余歳になってしみじみと振り返るこのごろです。富士工場謡曲部より延々と今日まで…。転々と住所を変えながらも、うとう会を一つの目標に続けてきたことは我ながら驚きです。大阪、湯の山、三井寺、竜野市、相生市、20周年は東京の清風クラブ、記念の植樹、今は大きくなっていることでしょう。</p>
<p>もりひろ ただこ 守弘 董子（観世） 家族 S 6. 6. 8</p>	<p>最近、地域センターの観世同好会に入れていただき、月2回の素謡を楽しんでおります。</p>
<p>もりもと まこと 森本 眞（宝生） 本社 S 16. 10. 16 生</p>	<p>20年も前のことで記憶がはっきりしませんが、うとう会を目標に、水原先生、森泰城さんの受けました。三島、浜松などの会で、だいが調子を外したのを覚えております。</p>

<p>やお かずひろ 八尾 和広（観世） 東京支社 S 2 2 . 8 . 1 生</p>	<p>謡をやっていますと言うより、本社謡曲部に籍を置いてもらっているという近況ですが、平成元年小野葉満子先生の観葉会に「七騎落」の素謡で国立能楽堂に出させていただいたのが貴重な思い出です。いまだにうとう会の懇親会への参加は欠かしていませんが、練習も欠席しないように心がけるつもりです。</p>
<p>やすじま すずむ 安島 将（観世） 本社 S 1 3 . 1 . 2 9 生</p>	<p>最近うとう会では、本社観世の地頭か副地頭を務めることが多くなり、役を謡う機会がなくなった。たしかにシテを謡うのも気分はよいが、地頭のむずかしい役割の中でリーダーシップを発揮する充実感もまた、素晴らしい。副地頭で地頭をうまく補佐できたと思える時も同様で、これが謡曲の奥深さの一面かな、と思う。これに仕舞や鼓、笛が加わったらどうなるだろう。</p>
<p>やなぎみのる 柳 實（観世） 元防府工場 T 1 2 . 1 1 . 1 8 生</p>	<p>うとう会の皆様には申し訳ありませんが、協和を退職して以来、謡曲とは全く疎遠となりました。現在は、土いじりに余生をかけ健康第一の毎日です。</p>
<p>やなぎ よしこ 柳 俣子（観世） 元防府工場 S 3 . 1 0 . 8 生</p>	<p>夢にまで見た深秋の三井寺にて鐘の段を、また古えのかおり漂う醍醐荘の能舞台で、通小町を舞わせて頂きました時の感動は、今もあつき思いの波となって、私の胸に押し寄せてまいります。 良き趣味に巡り合え、退職後も楽しき日々を過ごさせていただいております。これもひとえに、うとう会の皆様のお蔭と心より感謝、合掌。</p>
<p>やふした ひきお 藪下 尚夫（観世） 本社 S 1 7 . 2 . 1 5 生</p>	<p>毎年違う場所で開催されるので、出席すること自体が楽しみです。昔の番組を見て、どんな会だったのか、どんな事があったのかを思い出しても楽しめます。幹事の方にはご苦勞をおかけしますが、珍しいところへ旅行できるよう、お願いします。</p>

<p>やまが たきお 山家 多喜男（観世） 四日市工場 S14. 3. 10生</p>	<p>今から10年前の20周年記念の頃には、若手世話役の一人として、番組の編成や座談会の司会などにも参画させて頂き、今ではいい思い出となっております。</p> <p>あれから10年、諸先輩方のめざましい発展を目の前にし、自分は何をしていたのかと反省しております。今はただ細く長く、21世紀をめざして精進するつもりです。</p>
<p>やまがた しょうこ 山縣 頌子（宝生） 本社</p>	<p>「継続は力なり」を信じて、周囲のご迷惑をも顧みず休み休みの稽古を続けています。</p>
<p>やまぐち せいじ 山口 整次（観世） 堺工場 S10. 3. 17生</p>	<p>謡人生八十年…。私たちが40年余り教えていただいた福島得先生は、齢九十だがすこぶるお元気で、誰の世話にもならず悠々自適の生活を送っておられる。今も私たちのことを気にかけてくださる。「謡は生きる励みを与えてくれる良き伴侶だ…」とおっしゃる。老いてますます気力盛んな女先生、いつまでもお元気でいてください。</p>
<p>やまだ よしゆき 山田 義之（観世） 堺工場 S19. 12. 19生</p>	<p>第9回から参加させていただいております。第11回の時「敦盛」を舞わせていただき、着物を着せてもらった記憶があります。30周年を機に長く続けていきたいと考えております。</p>
<p>やまの じゆんぞう 山野 順三（観世） 四日市研究所 S37. 9. 25生</p>	<p>今回で3回目ですが、まだまだ練習不足のため、初心者のままです。</p> <p>今後も続けていくつもりですので、よろしく願います。</p>

<p>よしおか せいいち 吉岡 征一（観世） 宇部工場 S 1 2 . 7 . 1 3 生</p>	<p>S 6 0 年長浜で開催された時、初めて参加して皆様が大変上手なのにびっくりしました。 その後、毎年参加していますが楽しみです。日頃の練習機会づくりをさぼっているのが近況です。 今年はハカマを購入する予定で、人生の趣味としても今後とも努力したいと思っています。</p>
<p>よした のりこ 吉田 紀子（観世） 本社 S 2 0 . 6 . 1 1 生</p>	<p>「謡から遠ざかって早や3年余」というのが、前回の20周年記念誌の際の書き出しでした。ということは、今回は13年余ということで、記念誌なるものに名を連ねるのも気恥ずかしい限りです。今後も聞く人、観る人の立場で謡とお付き合いをさせていただきたいと思っております。うとう会のますますのご発展をお祈りいたします。</p>
<p>わたなべ かわる 渡辺 薫（観世） 元本社 T 1 4 . 1 2 . 1 5 生</p>	<p>うとう会には全くご無沙汰しており申し訳ありません。私の声帯にスキ間があるようで大声を出すとノドが痛くなり声がカスれて、果ては出なくなります。普通の話も控え目にしています。しかし「船弁慶」のシテをや、鉢の木の地を謡ったことは今も楽しい思い出です。今では聞くだけを楽しみにしております。</p>
<p>わたなべ のぼる 渡辺 登（観世） 土浦工場 S 1 5 . 2 . 1 3 生</p>	<p>由緒ある社寺や、立派な舞台で毎年催される「うとう会」への参加は、温かい歴史へのフレ合いと共に懐かしい人々への再会の場であった。未熟な声で、シテ、ワキ夫々大声を出すことのみ専念していたような気がする。それも途絶えて久しい。何時の日かまた、ご指導いただける師を待つこのごろである。</p>
<p>わたなべ ひきこ 渡辺 尚子（観世） 本社</p>	<p>謡曲を始めてから10数年が経ってしまいました。最近小野先生が、「渡辺さんは、すぐおやめになると思います」と言われましたが、我ながらよく続いていると思います。あまり熱心にやっていないからかも知れません。でも継続は力、同じころに始めた皆さんがとてもお上手になっているので、私も頑張らなければと思っています。</p>

協和とう会会員名簿(続き)

氏名	所属	氏名	所属
秋山 安	本社	古賀 勇治	元防府工場
浅井 勝	協和メデックス	小林 好美	東京研究所
浅野 明子	家族	小松 祥男	本社
天野美智子	家族	小山しづり	東京研究所
飯島 仁司	元四日市工場	小山 武彦	元防府工場
池田 進	元防府工場	坂井満里子	家族
池田 勝	元本社	作村 武夫	元四日市工場
池田真知子	元土浦工場	佐々木二郎	元盛岡営業所
石塚 謙二	大阪支社	佐藤 誠	東京支社
板村 政雄	防府工場	鮫島 廣年	協和メデックス
伊藤 りか	防府工場	沢本 和容	仙台支店
今井 孝一	元防府工場	重田 恵子	家族
今田 義信	元防府工場	重信 浩一	本社
植松 武	元門司工場	島田 活志	協和サービス
内田 和子	防府工場	志村 元	本社
海野 尚幸	元本社	菅谷 亨	堺工場
江頭 博	元門司工場	菅 善人	本社
大内 弘造	東京研究所	杉山 喜好	防府工場
小川 幸男	東京支社	高井 春樹	東京研究所
岡田 英明	元本社	高野 正子	東京研究所
岡藤 弘	堺工場	高橋 栄一	四日市工場
小田 文一	本社	高橋 純子	家族
落合 恵子	東京研究所	高山美津江	元防府工場
加来 佐吉	防府工場	滝下 晴次	元門司工場
粕川 元一	オーランドフーズ	竹林 実	防府工場
勝又 菊枝	家族	立林 鉄也	富士工場
加藤 博通	本社	田辺 靖夫	宇部工場
金田タカ枝	元富士工場	塚谷 則子	家族
上條 佑蔵	本社	辻村 秀員	堺工場
河本 太	トウヤマ	堂尾 秀友	元防府工場
河盛 幹雄	協和マイルス	永井三重子	家族
木野 邦器	防府工場	中川 慶次	宇部工場グループ
木下登志子	元富士工場	中里 宜資	富士工場
久保 伸篤	千代田開発	中原 博明	防府工場
紅野 昭	協和メデックス	中村 和子	家族
古賀源太郎	本社	中村寛之助	本社

氏 名	所 属	氏 名	所 属
中村 真一	堺工場	山元 一弘	東京研究所
奈良 高	本 社	吉家 重夫	堺工場
西屋寿美子	家 族	吉田 綾子	元本社
馬場 治次	元富士工場	吉村 信次	元門司工場
場本 毅	本 社	若月 静人	防府工場
服部 浩三	本 社	渡辺 薫	東京研究所
浜口 元香	東京研究所	渡辺 大介	ヤンセン協和
浜野賢太郎	本 社	渡辺 富和	元宇部工場
弘中 吉雄	門司工場		
藤井美代子	元防府工場		
藤代 欣也	東京研究所		
藤田善次郎	元門司工場		
藤原みよ子	元富士工場		
古川 忠康	本 社		
保利 静人	元堺工場		
毎田 治美	家 族		
町田 玲子	元東京研究所		
松崎 勝正	防府工場		
松崎 充	元宇部工場		
松重 見司	防府工場		
松田 重久	千代田開発宇部営業所		
松村 茂	本 社		
真鍋 忠彦	宇部工場		
南 亜夫	名古屋支社		
峰浦 和幸	本 社		
三宅 隆夫	本 社		
村田 義文	防府工場		
百瀬 三雄	元土浦工場		
森 英郎	東京研究所		
森 泰城	元本社		
森山 清孝	元九州支社		
森山 圭雄	宇部工場		
森脇 亮	千代田開発		
矢尾 幸三	富士工場		
矢木宏一郎	宇部工場		
八倉卷忠二	元東京支社		
安近 毅	柏 木		

編集後記

□：文明の利器の素晴らしさを、この記念誌編集作業で再認識しました。今回は「できるだけ安く、分担して、原稿整理・校正などの手間を少なくする」ために、自前のワープロ作業でつくることにしました。そして、名簿編のほとんどは本社・田辺博章さんに打っていただきました。田辺さんの自家用機は富士通のオ



田辺さん・左と安島

アシスです。私のはNECパソコン用ソフトのユーカラartです。田辺さんから受取った名簿のフロッピーディスクを私のパソコンに入れて、文字の変更や名簿の追加が自由にできるので。そして、レーザープリンターで印刷したものを、そのまま印刷するとこのような仕上りです。十年前の記念誌編集では、想像もできなかったことです。

□：磯部さんが「とても水原さんのように詳しいものは書けない」と述べておられるように、私にも時間の関係で手の回らないところがありました。たとえば、毎回の参加者名掲載や番組を実際に進化したものに修正することです。この点、二十周年記念誌よりも記録としては略したものになりました。

□：「謡曲十五徳」が本誌の二・二十六・五十九ページに

紹介されていますが、それぞれ言葉や順序が異なります。私の手元に六種類の「謡曲十五徳」があります。檜書店の「観世」編集部の富永さんを

「謡曲十五徳」と「謡曲十徳」（・印のないもの）の読み方。六資料から取捨選択。行かずして名所を知る

旅に在りて知音を得る
習わずして歌道を識る
詠めずして花月を望む
友無くして閑居を慰む
業無くして鬱気を散ず
・思わずして座上に昇る
望まざして高位と交る
老いずして古事を知る
恋せずして美人を懐う
・馴れずして武芸に近づく
・軍せずして戦場を識る
・祈らずして神徳を得る
触れずして佛道を知る
・蔽ならずして形美を嗜む

小野葉満子先生に紹介していただき、うかがったところ、「これという決定版はなく、説く人の考えによって少しずつ違ったものになったようです。檜書店が『新・謡曲十五徳』を懸賞募集したこともありません」と、懇切にファックスでその資料まで送っていただきました。これは私にとって「プラス一徳」でした。

□：二十周年記念誌に続いての編集担当、まさに光栄の至りです。ご協力ありがとうございました。（安島 将）

うとう

協和うとう会三十周年記念誌

平成四年十月十六日発行

協和うとう会

東京都千代田区大手町一

六―一 大手町ビル

協和発酵工業株式会社内